

資料2 混声合唱組曲「心の四季」より「雪の日に」

作成 2023-2-28 岡本雅幸

作詩 吉野 弘 作曲 高田 三郎

雪がはげしく ふりつづける  
雪の白さを こらえながら

欺き(あざむき)やすい 雪の白さ  
誰もが信じる 雪の白さ  
信じられている雪は せつない

どこに 純白な心など あろう  
どこに 汚れぬ雪など あろう

雪がはげしく ふりつづける  
うわべの白さで 輝きながら  
うわべの白さを こらえながら  
雪は 汚れぬものとして  
いつまでも白いものとして  
空の高みに生まれたのだ  
その悲しみを どうふらそう

雪はひとたび ふりはじめると  
あとからあとから ふりつづく  
雪の汚れを かくすため

純白を 花びらのように かさねていって  
あとからあとから かさねていって  
雪の汚れを かくすのだ

雪がはげしく ふりつづける  
雪はおのれを どうしたら  
欺かないで 生きられるだろう  
それが もはや  
みずからの手に負えなくなってしまったかのように  
雪ははげしく ふりつづける

雪の上に 雪が  
その上から 雪が  
たとえようのない 重さで  
音もなく かさなってゆく  
かさねられてゆく  
かさなってゆく かさねられてゆく

## お薦め YouTube 動画

<https://www.youtube.com/watch?v=EtQqLBcyWqE>

演奏 駒澤大学合唱団 (4'20“)

## 有用なレビュー記事

[https://www.amazon.co.jp/gp/customer-reviews/R1IG8EJD2O9WH1/ref=cm\\_cr\\_dp\\_d\\_rvw\\_ttl?ie=UTF8&ASIN=B000ECY4JW](https://www.amazon.co.jp/gp/customer-reviews/R1IG8EJD2O9WH1/ref=cm_cr_dp_d_rvw_ttl?ie=UTF8&ASIN=B000ECY4JW)

高田三郎作曲の『心の四季』は、好きな合唱組曲です。ご存知の通り、『水のいのち』と並んで高田三郎の名曲中の名曲です。日本の合唱団の多くで取り上げられてきたのは間違いありません。

全曲を通してとても細やかで美しい曲想を伴っています。吉野弘の詩は内省的で歌い手や聴衆に人間の生き方を問いかけているかのように感じます。高田三郎の深い精神性が音楽から伝わってくる組曲だと言えます。

特に第1曲「風が」と、第6曲「雪の日に」が良いですね。

第1曲「風が」の♪見えない時間に吹かれている♪のところは、年々齢を重ねている様をたとえています。人生を春夏秋冬に例えあげ、それぞれのワンシーンを印象的に歌いあげた透明感のある曲です。平易ではありませんが格調の高い音楽が内在しているところにこの「風が」の素晴らしさがあると思います。合唱界における名曲の一つでしょう。

第6曲「雪の日に」の音楽の持つ激しさもまた生きることの厳しさに繋がるわけです。♪どこに純白な心などあろう どこに汚れぬ雪などあろう♪のフレーズで、合唱がたたみかける箇所はいつ聴いてもゾクッとくるところです。ピアノの切れ味と合唱の厚みが必要となり、合唱団の力量が問われる曲ですね。

高田三郎氏が指揮する大久保混声合唱団の演奏はお手本のような合唱と言えます。作曲者自身の解釈による端正で透明感に溢れる合唱がそこにありました。

福永陽一郎氏が指揮する日本アカデミー合唱団の演奏も素晴らしいですね。母体の京都エコーの立派な発声に裏付けられた表現力のダイナミックさが魅力です。三浦洋一氏のピアノ演奏も定評のあるところではあります。